

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービスYELL		
○保護者評価実施期間	2025年11月13日 ～ 2025年12月25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数) 8人
○従業者評価実施期間	2026年1月7日 ～ 2026年1月20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心して通所でき、楽しみにしているという評価が多く寄せられた。	清潔で快適な環境を維持するため、清掃や整理整頓を徹底し、子どもが落ち着いて過ごせる空間づくりに努めている。  子どもが理解しやすいよう、活動前に「今日の約束」を確認する時間を設け、安心して過ごせる環境づくりを行っている。	活動スペースが「少し狭い」との意見を踏まえ、机や備品の配置を見直し、広く使える環境づくりを進める。
2	職員が子どもの特性を理解し、丁寧に共感的な支援を行っている点が高く評価された。	子どもの成功体験を積めるよう、できた行動をすぐに認める声かけを意識して行っている。	子どもの特性理解に基づく支援をより実践的な場面へ広げるため、外出活動の機会を計画的に増やす。室内に偏らない活動構成とすることで、社会性や自立に向けたスキル獲得の機会を充実させていく。
3	活動内容が子どもの興味やブームに応じて柔軟に工夫され、固定化しないよう配慮されている。  個別支援計画の作成において、モニタリングを通じて保護者と共通理解を回りながら、子どもの課題やニーズを適切に反映しているとの意見があった。	個別支援計画の作成にあたり、保護者との面談や日々のやり取りを通して、子どもの課題や成長を共有しながら計画に反映している。	個別支援計画の内容をよりわかりやすく伝えるため、保護者向けの説明資料を整備します。また、活動選択の幅を広げ、子どもが主体的に参加できる機会を増やします。さらに、モニタリング結果の共有を強化し、家庭と連携した支援体制を充実させます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが「少し狭い」との意見があり、環境面での改善が必要とされている。	備品や机の配置が固定化しており、活動内容に応じたレイアウト変更が十分に行えていなかった。  室内活動が中心となり、外出活動とのバランスが取れていなかった。	机・棚・備品の配置を見直し、活動に応じて柔軟にレイアウト変更できる環境を整える。  外出活動の機会を増やし、室内の混雑を軽減する。  活動ごとのスペース利用ルールを職員間で統一し、効率的な空間活用を図る。
2	地域の子どもの交流や、保護者同士のつながりを持つ機会が少ない。	外部施設との連携体制が十分に構築できていなかった。  日々の支援を優先し、家族支援プログラムの企画に時間を割けていなかった。	児童館・放課後児童クラブなど地域施設との連携を進め、交流活動を企画する。  保護者向けのミニ講座や情報交換会を開催し、家庭支援の充実を図る。  年間行事に「地域交流」「保護者交流」を組み込むことで、継続的に実施できる体制を整える。
3	安全面の対応については迅速で信頼できるとの評価をいただいている一方で、保護者への情報提供や説明体制が十分に整っていない点が課題として挙げられる。	職員間では共有できていたが、保護者向けの説明資料や伝達方法が整備されていなかった。  通信で説明する機会を設けていなかった。	個人情報保護や安全管理に関する職員研修を継続し、保護者にも取り組み内容を共有する。